山小屋へ行く皆様へ、そして特に長田さんへ
お元気ですか？？？　ツルオカさんが差入れを持っていくというので、私も急に思いついて差入れ致します。差入れについては、差入れらしくないものですけど（だって、ツルオカさん曰く、リンゴ 30 個だの、卵だの困らせるような品物を差し入れるのが本当だって)、夜行列車の中で食べてください。けんかしないように細切り（？）にしました。仲良く食べて下さい。それから長田さん、山小屋の話、楽しみにして待ってます。おみやげも非常に楽しみにして待ってます。では　バイバイ

美保子

昭和 47 年 6 月 17 日(土)

＜入山（男４中島・中村友二・，女３）＞

男４人、女３人で高谷池に登りに来ました。事実、6 月の高谷池からの景色は、素晴らしかった。初めてＬらしいＬをやる。欠陥をなんとかごまかしながら、なんとか全員無事に小屋に戻る。表面的には普通の P.W. と変わらなかったが、私個人としては全く新しい山行であった。Ｌとは何か、考えさせられる。
Ｌとは一体何だろう。月光仮面、ジョウダンじゃない。じゃピエロ。そう、そんな感じがする。
赤松さんが、Ｌとはチューインガムの包みみたいなものか、と問うていた。新人合宿、夏合宿と通して彼が俺のＬだった。その頃の俺は、さっぱり彼に気持が判らなかった。どちらかというと胡散臭い存在として感じていた。彼はＬとしての自分を考え、悩んでいたように思う。今、いくらか彼の気持ちが判ったような気がした。しかし、どうにもならない。俺も同じように悩むような気がする。
もう一度問いたい。Ｌとは？
山行中、俺は自分自身と戦い続けていた。Ｌがヤレと言えばメンバーはそれに従う。あまりにも簡単に人を動かせる。それだけ影響力も大きい。人をダメにすることさえ有り得る。それがコワイ。しかし逆に、人を活かすことも出来るのではないか。やりがいもある。だが自分に問い返してみよう。それだけの力が俺にはあるのか。あまりに無力な俺。常に悩み続けていた。メンバーに期待してはいけない。それは自分を傷つけることになる。（*どうしてでしょうか？　広瀬*）　だが、俺は期待したい。裏切られても常に夢は持ちたい。俺は人間だ！欠陥だらけだ。人にも甘えてみたい。Ｌは完全である必要はない。
この山行中、メンバーにＬを意識させないように努めた。しかし非常に無力だった。いや、全く無力だった。
この夏一人で北海道へ行く。しばらくはＬはやらない。ワンゲルの事、自分の事を北海道へ行って考えてみたい。その計画を立てようと、山小屋へ行こうと思った。しかしＬ業に忙殺され、そんな暇は見つけられなかった。下宿に帰ったらゆっくり計画しよう。
たまにはクラブを離れて自由になりたい。（*自由ってどういう意味の自由ですか；広瀬*）
（p.s.　友二さんには精神的・技術的に非常に助けて貰った。）
二年の男子へアッピール
皆もっとエゴ的になれ！
もっと個性を出せ！（*他人に対してこんな事を言うのは傲慢過ぎませんか；広瀬*）
安っぽい配慮なんか捨てちまえ！
魅力があれば他人はおのずからついてくる。！
あまりに末梢的な事は考えるな！
もっと大きな視野を持て！
これを読んで腹を立てるな。よくクラブを見てみろ。何もしないでいると大変なことになるゾ！今の三年にはもう期待できない。
二年がヤラネバ。
パトスを持て！（女の子は態度をはっきりさせてくれ）

2 年 15th K.NAKAJIMA　中島 一夫

（*中島君の言わんとする事は、ウスウス想像は出来ますが、こんな形で、二年生に自分の考えを伝えるのではなくて、直接ミーティングで言ったらどうでしょう。パトス　は文章にすると、ややもすると膨張過多になることもありますから。　；広瀬　1972.7.15　これも安っぽい配慮でしょうか。*）

白い雪の上に
まっしろな蛾が死んでいた
手の上にのせると
つめたくって、かなしかった
ポツンといって、雪の上におちた。

高谷池で

山小屋に来る人って、何回も来ているんですね。私もその仲間入りしようかｌ。ワンゲルをやめるのは自分に負けることだって言われました。少人数で来て話をするには小屋は最適ですね。
私はあまりにも自分のことだけを考えすぎている。話していてそう感じた。クラブのこと、仲間のこと、もっと真剣に考えなくては…
インスピレーションより

題　　ひざまくら
ひざがまっくら　ほたるとび
ひじまくら
吉国さんのひざでねたい
ゆっくりねよう
この　ここちよさ
ああ　ひざまくら　ひざまくら

題　　井戸ばたで
井戸ばたであの子のうなじ　そっとふれ

題　　君の手を
さすり　あかぎれ　くろうかけ
あらしたくない　アルコエル
そっとにぎって　わかれるの
ふりきり　とびのる　終わっしゃ

昭和 47 年 6 月 18 日(日)

A.M.　2：20
自分の存在というものを知るかのように、自分で自然の一つである花を見て思った。私は今まで夢を見ていたのかもしれない、なんて、時々思うことがある。こんな事があって良いのだろうかなんて、これは本当は、目が覚めてしまえば跡形も無くなってしまう夢だったのではないかと。笹ヶ峰牧場に本当に小さな小さな黄色の花を見た時、というより、見ている時に、こんな小さな花ではあるが、彼女たちにも、精一杯生きているのだと思ったりした。まだ私は自然の良さというものを知らない。だけど、高校の時、つくづくと自分は孤独なんだな、なんて思っていた時、道端に一つの花が咲いていた時とか、朝早く起きて、雨戸を開けてみたら空一面にオレンジ色のどこまでもどこまでも続いている朝焼けを見たときなんか最高に心が興奮して、涙さえ出た事があった事を、今でも覚えている。これが自然なのかと。
天狗の庭で、かなり雪解け水があった。ここには花の芽が出ていたのであったが、私は危うく踏みそうになってしまったのだが、友二さんがごく自然に、芽があるという事を言って、注意してくれた事は良かった。そしてこれが、自然を愛する人が、ごく自然に注意する事が出来るのかと思ってみたりした。
この地球上にあるもの全ては、みんなみんな自然になっていなければならない。自然であってこそ本当なのだ。水が飲みたいときに飲み、そして酒が飲みたい時に飲み、山に登りたい時に登り、それが本当の人間の姿なのだ。それが一番、人間にとって健康なのだ。健康になりたい。
線香花火って何かを訴えているような感じがしてくる。火を点けてから２，３秒はヴァーと燃えて、そして暫くして赤い火の玉ができあがり、そして　じっと何かを考えている様にしている。暫くして考えが決まって、自分の行動をしているようにパッパッと光の線が出る。そして又何かを考え出している、この時は、その行動を反省しているかのように見える。そして、再び今度はさっきの光の線とは違った、滑らかな線がサァーサァーという感じで光の線を出してくる。しかし、線香花火にも最後という事がある。あの光玉が、最後には＊の端からボトンと落ちてしまうのである。？♀

生きてるのって面白い。だって、たくさん思ったり感じたりできるでしょ。悲しくなったり、嬉しくなったり、悩んだり苦しくても、泣いても生きてる証拠。そう思うと、みんなおかしくなっちゃう。わーい、おもしろい！でも　やっぱり悲しいよ

1 年 16th 長田恭子

小屋に来たけど酒は無く、何となく白け気味。今日はもう帰るのです。もっと　ノンビリしたかったけど、さよなら

2 年 15th うしくぼ 牛窪肖

昭和 47 年 7 月 10 日(月)

ごご５じ
昨日と全く同じように雨が降っている。まったくついていない。去年のこの時期初めて小屋に来た時（7.12-16）は、筒井さんと竹村さんと一緒であった。竹村さんは杉野沢で用を足していたので筒井と小屋への入口が判らずウロウロしてやっと見つけたこの小屋。スライドや行った人の話を聞いて想像していたよりは殺風景な外観であった。今回と同様、便所の窓から体をくねらせて、やっとのことで中に入った。それから、井戸を見てびっくりした。ネズミが３匹そこに居た。一匹は浮いて、二匹は沈んで。浮いているのはすぐ出したが、沈んだのはそのままだった。ずっとその水で飯を作っていた。相当ネズミの汁が混ざっていたろうに。気持ち悪い。ところで今回も、ネズミは居た。小さいのが一匹、こんな風に仰向けに浮いていて、二,三匹は沈んでいるよう。気持ち悪いので、一切手をつけないで置いてある。水は昨日、ワザワザ五八木まで行って汲み、今日、黒沢へ行って汲んできた。昨晩ネズミがゴソゴソしていたが、この付近ネズミが増えているのではないか。去年はこんな事無かった。井戸の枠と蓋、もっとちゃんとしたの作った方がいい。ところでネズミは何であんなとこへ飛び込むのだろう。多分、うっかり入り込んで足を滑らせて、ボチャンと落

っこったのだろが、ネズミの為にも、ちゃんとした蓋を作ろう。ところで昨日来たとき、蓋が開けっ放しになっていた。昨年の話に戻るが、竹村さんに高谷池に連れて行って貰い、黒姫山にも連れて行って貰った。当時丹沢桧洞と新人合宿の大菩薩バカ尾根ナイトハイク、同ボッカだけしか経験の無かった僕にとって、天狗の庭の雪渓と小さい花、そして残雪の火打、焼は初めて見た山の美しさであった。それから暫く、一番良かった所は？と聞かれて、高谷池と答える時期が続いた。今回一年生を連れてきて、同様の感動を味わって貰おうと思ったが、各種夏期ワンで忙しいようで、果たせなかった。入部した一年生は最初に山小屋に来るべきだ。今は入部して暫くは、山のつまらなさばかりを味わっているのではないかしら。そしてたとえ、チョンボと言われようが、一人で山へ行くべきだと思う。ワンゲルを考える上でも、非常に有効です。僕自身ワンゲルバカにはなりたくないと思う。少なくとも今のようなワンゲルでは。広瀬さん、筒井さん、竹村さん、山川さんそして僕とで行った黒姫山には、あまり良い印象を持たなかった。４時間のつもりが８時間かかってヘトヘト、道は廃道に近く、湿原多く、とうの立った水芭蕉の巨大なはっぱがボサッと立っていた。さぞ、ここの水芭蕉の花は大きいんだろうと思ったが、５月小屋の水芭蕉は小さくて可愛らしかったが、今では同じように巨大な葉っぱとなっている。しかし黒姫山は味のある山だ。小屋から見るとオッパイ山と言われるように、こんな恰好をしていて、裾野は無惨に伐採され、更に画一的に植林されていて、一見まことに冴えないが、何回も行ってみると実に趣の深い山である事が解る。こちらの方は高谷池と違ってあまり破壊が進んでいないのが救いだ。高谷池の方は人が多く、三角屋根のヒュッテなんぞがあって、ひどく破壊されている。その時更に杉野沢の苗名滝へも行った。ドウって事無かったが。そして竹村養魚場でのニジマス釣りはとても楽しかった。釣りなど殆どやったことにない僕が、一番先に大物を釣り上げ、続いて筒井が釣り上げた。大きいことを盛んに言っていた竹村さんは、とうとぷ釣ることが出来ずに終わった。こんな訳で、昨年のこの時期、初めての山小屋は思い出が多く、以来、山小屋がすっかり気に入ったのである。

２年 15th　加納康樹

昭和 47 年 7 月 11 日(火)

井戸の水さらいをやったのです。中にはネズミ４匹、岩船が３匹、ウダが１匹かい出したのです。ネズミは臭くってもう、よくあんな水飲んだと思うよ。フウセンみたいにふくらんで、あ～～～いやだ。あんな水飲むなんて、皆さん、山小屋なんて来ない方がいいよ。汚くって。でも俺は、来るもんね。

４年 13thＮＴ　竹村昇

今日の３時近く、広瀬さんのトラックで到着する。高橋さん、竹村さん、広瀬さん、岩船さん、それに私の五人です。小屋には加納さんが先に入っていた。私は出発間際、非常に忙しく、カギを持ってくるのを忘れてしまい、中から反対側のドアーを開けて、中に入ることにした。昨日は断続的にかなり激しく雨が降っていた。武蔵小杉から環七、国道 17 号、18 号、杉野沢、小屋へとを登ってきた。真夜中、トラックの助手席に座り通しの旅は初めてでした。定期便の大型トラックが道の真ん中をドッスンと走り、横をピュッと走り抜けて行く。乗用車もヒョイヒョイ走っていた。汽車の周りは全て暗闇、時折の駅も蛍光灯の光が何か白々しく見える。車の周りは、ネオン、ライト、標識とかなり明るく、賑やかです。行き交う自動車が息づいている。碓氷峠の有料道路は両側にオレンジと白っぽい証明が、カーブ毎に続いており、ハンドルを切るとランプが前面に浮かび上がり、霧の中に少しかすんで、ボンヤリ、滲み出していた。目の悪い私は、光というものがみんな、ボーッと霞んだようになります。無事について良かった。

８時頃、南アの荷揚げから直行したウダさんが到着しました。長野駅泊、黒姫－杉野沢ロード経由の到着です。

今年の一年生の入小屋は、二名のみ。昨年は延べ 10 名ほど居たのではないかと思う。皆、合宿・ｐｗなどで忙しく、お金がかかるとか、アルバイトで来れないと言う。小屋を新人に伝えることも、私達の為すべき事なのかもしれない。

小屋の前まで入った車を、林道まで持っていったまま、男の方々は音沙汰なし。車が動かないのかな。きっとそうだ。”チリリ、チリリ”　”ピピピー”　”ヒョロロヒョロロ”　”カッコーカッコー”　”バタバタブーンブーン”　”フー”

木を切り出す音、樹の葉の擦りあう音、”ツブ、ツブ”と雨が時折トタンに当たる。

妙高が緑で覆われ、小さく近くなったような。小屋の周りも下草が生え、展望台に行くのが困難になった。唐松がヒョロロと背を伸ばしている。私も一年ごとに、背が伸びないかな。山川園には、二，三カ所芽が出ている。

眠い。皆などこかに行ってしまった。

この頃、夢と現実の区別がつかなくなった。と言うより、夢がとても具体的であり、夢を現実と混同してしまうのです。ウトウトとしたと思ったら、電話のベル、兄に呼ばれ、夜も遅いので、小さな声でモシモシとやると、相手は高校の友達。今＊＊に居る、出てお

出で　とくる、元気と言ったり、お互いに懐かしいねと言ったり、classmates のことやら、様々な話題を話し合う。それから外の人に代わり、電話口から向こうのやりとりやら、音楽やらが聞こえてくる。又、もう一人の人と話す。私の回りは、いつもの私の家の通り、そして私が小さな声で話をしているので、向こうも夜遅くかけてゴメンネ　とか言って、明日会えるか、明日はダメ、それじゃ来週の水曜とか約束して電話を切り、私はちょっと片付けて、自分の部屋に戻り、床に入る。朝起きても、ちゃんと覚えており、相手の声の調子まではっきりしているので、母に、昨日 tel あったかどうか尋ねると、やはり　無い　と言う。何故って私が寝たのが 12 時を過ぎていたので、そんな遅く Tel があるはずは無いので、色つき音つきのオソマツ。

そのほか、ワンゲルの人が出てきたり、知っている人のない駅や、道の風景とか、山小屋の夢もありました。

小屋で３回目の夏を迎えようとしています。

3 年 14 期　やまのい　山ノ井とし子

もう１２時過ぎたのだから、正確には 12 日なのかもしれない。それにしても、今日というか昨日というか、１１日は、いろいろな事をした。水さらいをした後、小屋の前の車を林道まで男共で出して、五八木まで車のチェーンを洗いに行こうとしたら、ガス欠になってしまった。山ノ井には申し訳ないけど、そのまま車をニュートラルにしまして、私の素晴らしい運転技術を縦横に使いまして、杉野沢にガソリンを入れに行ったのです。なんとも、もはや、恥ずかしい事であります。小屋に帰って、昨日持ってきた布団を再び車に積んで、今度は、岩船の家を通りながら直江津まで石炭を買いに行ったのです。私は荷台の上でスヤスヤしているうちに岩船の家に着いてしまったのですが、途中、随分スピード出していたようです。岩船の家では手打ちそばをご馳走になったけど、あれはうまかった。クラブの皆さんに推薦します。岩船の家に行くと、うまいそば　食えるよ。直江津に行って、石炭買ったのですが、その量というと、もう、ものすご～～～い量になりまして、帰り道、我々、つまり私と高橋さん、広瀬、ウダは、せま～～い荷台に押し込められて帰ってきたのです。いやだった。直江津の印象を言いますと、なんて言っても、昔の横浜のような、のんびりした、それでいた、活気のある町でした。日本海もとってもいいものです。何と言っても、あの海の向こうには、いつものアメリカと違って、ソ連があると思うと、実に･･･。結局複雑な気持だったのです。

話を変えまして、私が小屋に来たのはこれで１４回目、こんなに私は頑張って、小屋に来ているのに、我が長老、高ハシさんとの回数は、一向に変わらないのであります。私が小屋に来ると高ハシさんが必ず居ます。そして多分、高ハシさんが小屋に来ると必ず私が居るんでしょう。そんなわけで、差は、わずか 10 回、なんとか現役の時に追いつこうと頑張る積もりです。それにしても、私はよく来ましたねェ。そして、いつでもいつでも、その前回と全く変わっていない気がする。ストーブを取り付けると、次回はストーブがついていて、取り外すと次回はストーブが無い。まるで、何日も前からずーっとここで暮らしている気になるから不思議です。小屋は変わらない、いつでもいつでも私を待っていてくれる。それからそれから私の、例のマーク、一体いくつ山小屋ノートについているのでしょう。

雨シトシト降っていて、私は一人でノートに向かっているのです。そういえば昨年の今頃を思い出すと、背筋がゾーっとするのです。

4 年 13thＮＴ　竹村昇

昭和 47 年 7 月 12 日(水)

アサ

雨は止んでウグイスが盛んに鳴いているが、果たして晴れるかどうか非常に心配。あまり期待していないが。今日、萩生田と夏期W偵察のため、夕刻までに戸隠表山ー不動へ行くのですが、どうやら広瀬さんがクルマで送ってくれそうです。そこの避難小屋で高木さんと落ち合って明日、乙妻を越えて、傾度 60-70°という斜面を下り、ヤブに突入し、ニグロ山（1858）まで行く予定。しかし雨が降ったら…多分強行するだろう。何しろ、この偵察でいい結果が出たとき、やっと審査会、通りそうな情勢だから。頑張らなくちゃ。

2 年 15th　加納康樹

昨晩は久しぶりに他の人と話し合う時を持ちました。つまりワンゲルの現状について加納君・竹村氏それに俺（岩船君・萩生田君は布団の中でｽﾔｽﾔ）の三人が自分の考えを、結構正直に述べあったような気がするんです。加納君はワンゲル部が一定の方向性を持っていないことに苛立ちを持っているというのです。（俺も同感）。竹村氏は　ワンゲルに方向性を求めるのは無理だと言うのです。多様な人間の集合体である以上、枠をはめるのは、俺も不可能だし、誤りだと思います。しかし現在のワンゲルのあり方が果たして妥当なモノでしょうか。何か逃避的臭いのするワンダリングを、近代文明社会を捉え直す場にしていきたい気が俺にはするんです。勿論そんなことをするのはカッタルイ！などと言う人もいるでしょう。【汗を流して自然の中に自分を見いだす】というキャッチフレーズもいいでしょう。ただ自己没入は『社会』の中にいる自分を忘却させ自己陶酔に陥る危険があると思うのです。竹村氏は加納君の考えが気負いであると言ってました。俺

は、若いときは多少の気負いがあるのは当然な気がするのです。それがなぜだかうまく説明できません。部員の中で、享楽主義者と気負い派が居て、それでドラスティックな論争が無いのは、部の内部に日和見主義がビマンしているからではないでしょうか。俺の内部にも日和見主義が芽生えていることは否めません。サークルは自分の目標とは違うのだから適当にやっていこうと考える人が居るとしても、その人を頭から否定できないのも事実です。そうかといった、その人を俺の一生の友とすることも出来ないような気がするのです。なぜなら客観的（俗流）に見れば馬鹿げたことに夢中になる人(例えばサークル活動に熱中する人)を、俺は尊いと思うし好きだからです。あ〜〜、この矛盾をどうすればいいのでしょうか？朝飯を食べるのでこれでおしまい。

2年15th　K.Hirose　広瀬勝昭

降り続く雨で、トラックは遂に動かず。私達の再三に亘る試みも遂にダメ。降りしきる雨の中、泥をかぶりながらチェーンを巻き、後から横から押し、砂や石や板を下に敷き、土を掘り返したけれど、本当にどうしようもない。小屋の前はぬかるみ、泥の海、田植えの水田という感じです。

私は今回の山小屋行きでいろいろ反省されられました。結論を言うと…・なのです。皆にたくさん迷惑をかけ。

自分達で何かしようとするのは、とても難しいですね、それも…

今、皆は、お腹がすいて（何故って、あんなに重労働をしたのに、お昼も満足に食べていないんです。ーこれも私が、今日又、下に降りられると思い、充分に買わなかったのです。そして、小屋に５月の時あんなに在ったものが、全く無くなっていたのです。）

身体を動かすのもかったるく、横になり寝ているのです。私はあり合わせのものをお鍋にかけています。煮立ってきたのでちょっと失礼します。

3年14期　山ノ井とし子

P.M.11:05

今、高木氏小キジ撃ち発射、竹村氏はヘドロゲーゲー、加納氏はダウン、萩生田君は鼾をかいている。おやおや高木氏酔いが回ったのか、”みはるかす”を一人で唄っている。竹村氏再び起きあがり　又ダウン。山ノ井さんは高橋氏の看病に大わらわ、今38℃とのこと。うわ〜〜〜！竹村氏再噴射、いやだー！このような修羅場と化した山小屋が果たして本来の山小屋なのかどうか判らないが、何かに悶え、何かに絶望し、何かに希望する時、人は酔わずにいられないだろう。（実は俺も相当酔っているのだ）

2年15th　K.Hirose　広瀬勝昭

酒に酔ったぞー

4年13thNT　竹村昇

↑竹村さんが酔って書いた字。　11/12　11:20

昭和47年7月14日(金)

朝

出たのです！出ましたヨ〜〜ン　トラックが、広瀬さん、加納、萩生田と私メ、午後六時頃。うれしかったですねー。昨晩の酒のうまかった事、最高。夏期Wは鬼無里村から入る事に変更。何かさびしい、もうどうでもいいや、今日帰ります、サヨナラ

3年14th　高木展郎

昼

広瀬さん、加納、山ノ井さんが、下に材木買いに行きました。私も行くつもりで上まで行ったら、丁度出てしまったところでした。これから萩生田と高木さんとで笹ヶ峰へ行って、黒姫まで送り、そのまま家に帰ります。広瀬さん、帰り一人でご苦労だと思いますが、事故にはくれぐれも気をつけて帰ってください。山ノ井さん、いろいろとご苦労様でした。帰りは助手席で頑張って下さい。加納へ、18日だか19日　渋谷で待っている。それじゃ　これから出かけます。

2年15th　岩船芳人

p.s.　夏ミカン３ヶ置いときました。

岩船が帰るというので我々も妙高２号で帰ることにします。後片付けもせずに申し訳在りませんが、皆さん　よろしくお願いします。広瀬さんには大分お世話になりました。気をつけて帰ってください。さようなら。

2年15th　萩生田 弘

岩船さんが９時半に又来てくれた。昨日、車が動いたときの感激は、嬉しくて手を合わせて飛び上がり、声を上げてそのまま車を追いかけて走っていった。車は途中、危うくなったけれど、どうにかガタガタ猛スピードで、ここぞという勢いで、登っていく。加納さんが、（男３人後にくっついていたのですが)魚を水揚げする時のように横になり、荷台に転がり込んだ。高木さんは小さくなって必死にしがみついている。ウダさんもくっついている。車も必死に上っていく。最後に一寸危なかったけれど、一声ウナリをあげてカーブを曲がり、林道に入った。もう、うれしくて、うれしくて飛び上がり叫んでいた。

泥との闘い、二日間に亘り、やっとの思いで出た車、岩船さんがウィンチを借りてきてくれて、雨の中、びしょ濡れで、慣れない機械をいじくり回した。10㎝の移動に喜々とし、やっとの思いで引っ張り上げた車、造林小屋の手前まで引っ張り上げ、そこからシートを、何故かひき、一気に登った。皆なご苦労様。ありがとう。

昨日、高橋さんと竹村さんが帰った。今日は高木さんとウダさんが帰った。今小屋には、広瀬さんと加納さんと私の三人。材木や小物の買い出しに＊＊まで行き、２時頃戻り、その後、延々と７時近くまで話がはずむ。このお二人とは、夏合宿も一緒でした。広瀬さんの話を聞いていると、経験から練れた人間、人間の交わりというものについて教えられるが、加納さんは一生懸命考え、行動しているという感じです。来年のことが楽しみです。それでも、種々の話題について、よく話したモノです。でも、広瀬さんの経済・学問に対する捉え方を聞いて嬉しくなりました、どうかそれを進めて、理論的にも完成し、社会の変革への力となれる事を期待します。自分と同じように考えている人、方向に向かって努力している人に巡り会えるのは嬉しいことだし、力づけられる。

岩船さん、すいか、夏ミカン他差し入れありがとう。トランプ占い　その１。

今、男共は恋占いの真っ最中、只今加納さんが挑戦。横で広瀬さんが、自分のことを棚に上げて、全くつかない加納さんを冷やかしている。それにしてもこの二人、どうしてダメなんだろう。ワンゲルインポの典型。カードが全然出ないんです。５以上の事なんてあるのかしら。２or３で終わるのが普通。広瀬さんはショックでおかしくなり、イライラし、煙草をプカプカふかしたり、何度も何度もやっています。あ、又始めました。切る回数は併せて 61 回、彼の分を取ると２６．名前が６～７として、年は 20～19 の人のようです。もしや、貴女かもしれません。私は、きっとあの人だと思うんです。

外はとても静か、ガスが出て、鳥の声も消えた。

25 日からの山小屋集結が楽しいものであることを祈る。小屋をちゃんと整備しておきます。冬にも安心して使えるように。皆の山小屋。大事にしてください。友との語らいに。

報告。　広瀬さんの恋占い、結論が出ました。ダイヤが２で、Ａそのまま、これで証明されました、彼の・・・が。

それにしても、男の人二人とも、夢中にやれる対象が居てうらやましいな、私なんて、やる人も無く、やる気も起きない。良い相が出れば、現実との違いに嘆き、悪い相が出れば、やはり　と思い、とてもやる気が起きないんです。

昨日も飲みましたが、竹村氏のように、キツツキの真似をする人は出ませんでした。

小屋に入る方へ

お米や食料は必ず持参し、残ったものは日付を入れ、小屋に置いていって下さい。

布団を干して下さい。

トイレに殺虫剤をまいて下さい。

ネズミが出るので、食器や食物の管理に気をつけて下さい。帰るときに必ず食器棚や一斗缶に入れて下さい。

帰るときには、使ったものを元の所に戻して下さい。

入るときは必ず連絡して下さい。・ランプを消すときは、芯を落とさず、吹き消して下さい。

布団は下におろさず、２階で使うようにしてください。

タバコの灰は灰皿に捨てて下さい。

その他、こうしたら良いと思うこと、気のついたことなど、小屋に手を加えて下さい。

ローソクはローソク立てを使って下さい。ローを床に落としたり、他のものにローを垂らさないで下さい。

遅い夕飯を作るため、ちょっと失礼。

広瀬氏は、年を一つ増やしたところ、相手の女性の方はＫまで行きました。けれどやっぱり彼は３まで。

P.M.　9:00

今日はパリ祭（実は日本人が勝手に７月 14 日を、そう呼んだに過ぎないそうです）ということで、ラジオでは何だか、喫茶店が今日はやる　と言っていた。何故だろう？仏蘭西革命の発火点となったヴァスティーユ牢獄襲撃が、この日起こった。しかし今では、その事件の本質は省みられず、単なる風俗と化してしまっている気がする。昨日は悪戦苦闘の末、トラックが泥沼から出て（無理に引っ張り上げたというのが正確な言い方です。）安堵のため息をもらし、そのせいか今日はのんびりムードで、もう一晩泊まって、小屋掃除をしていくつもりでいます。トランプ占いを何度かやってみたものの、うまい具合にはいきませんでした。それもその筈、架空の女性を対象にしてやってみたんですから。（負け惜しみではないことを、ここにはっきりと宣誓します。）山ノ井さん、加納君、俺の三人で、いろんなことを話しました。意見の咬みあわない点が多分にあっても、それでいて話したナア！という実感が残っています。トラックを泥沼から出すのを手伝ってくれた岩船君、萩生田君、加納君、高木君、山ノ井さん、雨の中、どうもありがとうございました。・・・支離滅裂　とにかく頭がいたいのだ！

２年 15th　広瀬勝昭

のんびりしています。口にするお茶のうまさ。

トランプ占い　その２．　腹ごしらえの済んだところで、横になっていた加納さんは、やおら座り直し、

広瀬さん、トランプどこ？　とおっしゃった。切った枚数 53、つまり年は 20・名前６文字の人なのです。真剣な顔をして、あのしまらない口を無理に結び、横からの冷やかしに笑いを抑え、始めたのです。さあ、出るは、出るは、ハート・スペード交互に、それぞれ２とKに到達しました。ああ、満足、彼はこぼれる笑いを抑えきれず、白い歯を見せてニヤリ。年は 20 歳（きっと誕生日前です。）＊＊＊

＊＊子さん、そう、あの人なのです。広瀬さんは、あまりの成り行きに俄然ハッスル、加納さんのジャマをするなどと口走り、またもや始めたのです。１，２，３，４と数えながら、少々焦り気味。さあ結末はどうでしょう。ダメなのです。もう止めた方がいいよ。全くカードが増えず､クラブは２､ハートは４で終わり、他も６と２なのです｡以上報告終わり｡好きですねえ。彼はまたもや始めたのです。もうキリがないので止めます。（横で加納さんが安心したためか､広瀬さんのお手伝いです。）

小屋を片付けて、（折り畳んで戸棚にでもしまおうかしら）明日早く帰るつもりです。集結までに一度来たいけれど、どうなるか判りません。集結の時に充分小屋を活用できるようにしたつもりですが､力足りず、不満も出るかも知れません。しかし、小屋は私達一人一人の作り出すものですから、それらを解消されるよう、一緒に努力していきたいと思います。夏の小屋整備、何が出来るかな。

雨が良く降ります。今日は小屋の周りガスが立ちこめ、夜に入って雨になりました。

トランプ占い　その３。（山ノ井さん）

始めたらすぐにAを取り忘れた事に気づき再び切り直し。本命は私メ、対抗は加納君でやってるのです。神様、どうか助けて下さい。何と本命がそのままゴールでKに行ったのです。どうしてくれる？あれあれ、あれまー､全部Kまで行きましたよ！俺は知らないよ。

今回の入小屋。ワンゲルのこと、小屋のこと、こうだと言い切ることは出来ない。しかし、広瀬おじさまと、加納さんと私三人、何故かのんびり、ほんのり、しみじみ、…何かいいですね、ほんと。やっぱり山小屋いいですね。皆、大事にしてね。今度、一緒に来ましょうよ。ワンゲルの原点としてのなえな小屋。

今回の入小屋、高橋さん［雨に濡れて夜通しの運転ー助手席にも居たのですがーの疲れもあって、熱など出してしまったのですが、ー本当にスミマセン］　竹村さん［曽根原さんの家に一緒に行って貰ったり、いろいろ教えてもらったり、いろいろ有り難うございました］　岩船さん［お宅に伺って、手打ちのラーメンをご馳走になったり、二回に亘る家からの、自動車での入小屋、・・・新井．高田．直江津への案内、本当にご苦労様］　ウダさま［いつもいつも、マメに動いて下さるあなたに頭が下がります。南アの荷揚げの疲れも見せず、ご苦労様］　高木さん［夏のWの偵察の挫折の後、トラックの引き上げどうもありがとう、夏合宿頑張って下さい］　加納さん[清潔好きのあなたが、泥にまみれ､本当にありがとう]。 最後に広瀬様、[横浜での桜井、村田さんの 30 度を越す暑さの中での家探し、またもやトラックをお借りし、運転やら、ドジな私の面倒を見たり、本当に、本当に有り難うございました。トラックが動かなくなったときは、どうしようかと思いましたが、皆の努力で出すことが出来、本当に嬉しく思いました｡雨の中の小屋整備､買い出し、ご苦労様でした｡]みんなみんな､いっぱいありがとう。方法や計画や、不備な点が多く、迷惑をかけてしまってスミマセン。

石炭は集結の時に運んで貰うようにし、お水にしても、各自が運ぶようにしたり、誰かに頼むなり、したほうが来年は良いようです｡何だか皆､小屋に入る時、何かするのをとても嫌う傾向があるような。

私って暇なのかしら、さっきからずっと書いて居るんです。只今広瀬氏はホットケーキを焦がさず焼くのだと言って、何やらゴソゴソ始めました。加納さんは横でおねんね。きっと、さっきのトランプ占いの結末に満足して、想いを寄せる方の夢でもみているのでしょう。

この雨があがり、追悼Wが済むと、私達の夏が始まる、事故無く、無事に終わる事を祈る。皆ムリしないで下さい。

さて､明日は東京｡二つのドジをしているので､少々厳しい現実に直面しなければならない。

頑張るゾーーー。

3年14期　山ノ井とし子

お花畠

一番楽しかった時を考えると
高山の花のあひだで暮らした
あの透明な美酒のやうな幸福の
夏の幾日がおもわれる。
残雪や岩のほとりの
どんな花でも嘆賞に値したし
あらゆる花が夕べの空や星座の
深い意味を持っていた。
そこに空気は香り、
太陽の光は純粋に、
短い休暇が私にとっては永遠だった。

尾崎喜八作

現在７月 15 日午前０時 35 分、加納君、山ノ井さんは既に２階でおねんね。俺は下で枕元にランプを置きこの文章を書いている。雨が大分降ってきたらしい。雨音が激しくなっている。明朝（正確には今朝）車で帰るつもりでいる。しかし、この雨では運転するのも

いやだが仕方がない。11 日に小屋に来てから四日間、無駄な時間は一瞬たりとも無かったと断言できるほど、いろいろ考えさせられた。工学部学生に絶望する加納君、教育に邁進しようとしている山ノ井さん、自己絶対の高木氏、細い目をいよいよ細めて必死に自分の考えを述べる萩生田君、学問に楽観する竹村氏、専らマンガを読む岩船君、熱を出して床の中に居る高橋氏、この人間模様を垣間見る人が居たとしたら、その人は何と言うだろう。俺はこの人間集団のあり方がバラバラでいて、まとまりのない事に絶望はしなかったし、唾棄すべきものとは考えなかった。この人間集団の中に自分が身を置けることに感謝し、自己修正の場として捉えようと思っていた。結果はすぐには出せないだろうが、俺の一生の一結節点となっていくような気がする。

昭和 47 年 7 月 15 日(土)

＜出小屋（広瀬、加納、山ノ井）＞

台風が近づいています。寒いのでストーブを使いました。今日、早く帰らねばならないので、ストーブを片付けられません。今度入った人で、ジャマなら片付けてください。（そうして下さると嬉しいんです）。
夏の整備の、品物、お米（集結）など置いてあるのでよろしく。
思い出深い山小屋でした。今のことをもっと大きく捉える日がいつか来るだろう。私にとって本当に、意義ある日々ー山小屋でした。それじゃ、又来る日まで。
Ps 天気の良い日に布団干してください。

3 年 14 期　山ノ井とし子

昭和 47 年 7 月 22 日(土)

昨夜上野発 23:58 急行「妙高６号」で来る。一昨日、港祭りの花火大会を見に行きながら、ひょいと山小屋に行こうと考えて出かけてきた。それでもって一人で出かけてきたということなのです。高谷池でもって昼寝をするために今回は来たのだ。何せ、私めはこれまで高谷池に行ったことがないのです。だから何としても今回は行こうと思っている。一人で夜行列車に乗るのも楽しいものです。昨晩は、富山から周遊券で東京に来、黒姫高原で降りて泊まり、明日だろうと思うのだが、富山に帰るとかいう女の子二人と、一晩中おしゃべり。仲々可愛い子達であった。もっとも高校３年生とかで、私めから見ると可愛い妹と言う感じ。お守り札なんていうものを貰ってしまった。皆さんも一人旅をしましょう。おかげで眠くて眠くて、13:00 頃まで昼寝、布団が大分増えました。これから夏にはシュラフ持ってくる必要が無いようで、持ってくるものが少なくなり、助かります。石炭もいっぱいありますし、運んでくれた方々、ご苦労様です。小屋の前、相当に苦労して車を出したらしい跡が残っております。さぞかし大変なことであったでしょう。

ところで、山小屋日記、これは No.６　であると思うのですが、以前の日記、何処に行ってしまったのでありましょうか？SkyLine に載せる為に、横浜に持ち帰ったのだと思いますが、用が済んだら、早速にも小屋に戻しておいた方が良いと思います。前のノートを一冊、持ち帰った後、行方不明になってしまったのがありますから、このノート、これまでの山小屋の歴史なのですから、一冊（で）も　無くなって欲しくないのです。

OB11 期　桜井 ken 謙一

p.m.　８：30

明日は高谷池に行くつもり。もしかしたら火打まで、それから横浜に帰ります。山小屋には今日、一泊のみ。何か駆け足で来たみたいです。今日は何もしませんでした。山ノ井様、ストーブ、外しませんでした。どうも、どうもです。まあ、誰かのんびりと来る時に外してくださいな。山小屋使用者名簿見ましたところ、年齢を書くところまであるなんてまあ、どうであろうかと考えております。しかしながら、見ていたら、誰だか知らないけれど３月にもかなりの利用者があったらしいですが、一名　部外者で女の子、誰の友達なのか１人で来たのがおりますね。いろいろと想像したくなります。一体全体誰なんでしょうか。誰か教えてください、お願いいたします。

さて、これから寝ます。眠くて仕方がないのであります。おやすみなさい。

OB11 期　桜井 ken 謙一

昭和 47 年 7 月 23 日(日)

バイトもようやく終わった。休養と体力をつけに山小屋にやって来た。毎日ゴロゴロしている。何もやることがない。何も考えたくない。家に帰ったその時から、予定がぎっしり詰まっている。夏休みが終わる迄、このようにのんびり出来る日が、一日でもあるのだろうか。現実はキビシイネ。

書くのもめんどうくさい。ヤメタ

Tum.

p.m.２：１５

高谷池へ行って、帰ってきてお茶を飲んでいます。天候があまり良くなく、一日中曇りです。高谷池、人間がいっぱい。高谷池、ガスっていて何も見えず、おまけに風も強く、寒かった。おかげさまで昼寝の予定を変更、早々に退散してきました。花の写真、出来るだけ撮る予定であったけれど、今日帰らねばならぬという時間的制約の為、12,3 枚撮ったきり、マアいいでしょう。今度来る時は火打に登る予定、ただし天気なら。天気が悪いのに登る気はしないんですから私は。これより岡田さんの所に寄って帰るつもり。何せ一泊というのはあわただしくって、ゆっくり出来ない。少なくとも二，三泊しないと。それでは帰ります。

OB11 期　桜井 ken 謙一

昭和 47 年 8 月 12 日(土)

まことに申し訳ございません。私ﾒ、竹村は今日夕刻、ランプのホヤを壊してしまったのです。山ノ井様、どうぞご容赦下さい。

4 年 13thＮＴ　竹村　昇

昭和 47 年 8 月 14 日(月)

飯村さんへ

ガスの元栓（小屋の外で、正面より右側のハコの中）、を帰るとき、必ず締めておいて下さい。いろいろお世話になりました。

4 年 13thＮＴ　竹村　昇

昭和 47 年 8 月 15 日(火)

ａｍ　9:15
もう今日で山小屋ともお別れだ。久しぶりに山小屋でゆっくりできた。もう少し居たいのでが、屋久島の日程も迫っているし、卒論もやらねばならない。非常にウーウツだ。
昨日、山小屋５回目でやっと高谷池へ行った。日曜日にも拘わらず、人はそれほど多くない。天狗の庭では２，３パーティーとすれ違っただけ。天気も良く、気分も良し。いつまでもこの静かさを保って欲しい。
今度山小屋に来るのはいつになるのかなー、紅葉の頃か、それとも　もっと前に来られるか。

4年13th　YOKO　小沢　陽子

ａｍ　9:40
今回で山小屋へ来たのは３回目。きっときっと、10度目来たら、魔法瓶を持ってきます。

部外者　**恵**

この恵　というのは二人居るけど、山小屋へ３回も来たというのだから、オレの知っている方の恵ちゃんかナー。10回目の時は一緒に来ようか。魔法瓶に紅茶を入れて　笹ヶ峰へ二人で行くんだ。帰ってきたら一緒の茶碗でゴハン食べて、一緒のフトンで眠る。（寝るのではナイ。）だが、竹村にぶっ飛ばされるかもしれない。

（　No！！　コロスカモ　　ＮＴ　）

昭和47年8月20日(日)

５時半に小屋に着きました。やったのです。乙妻ー堂津、まだ夏季に人が通った事が無いという話。堂津岳に21時に着き、道を見つけた、あの感激、全員で歌った「みはるかす」、僕の今までのワンゲルの中で一番！良かった。一生忘れることの出来ない山行であった。岡戸さん、鵜飼、牛窪、加納、ウダ、大島とそれに唯１人の一年、植松、全員ほんとによくやった。

(3年14th　高木展郎

昭和47年8月21日(月)

きのう小屋にたどり着いた。本当に　たどり着いたと言う感じ。乙見山峠から笹ヶ峰までの　ロード　バテました。やはり　コンパスなのでしょーかねえ。１７日に　堂津を望んだときは　遠かった。今は　その堂津も　通り越して　ただうれしいだけ。ヤブコギは２度目、最初にやったのは　先月。そう　まだ　１ヶ月しか経ってないが、南アルプスで偵察に行った　とき。南のヤブは、低い灌木が主で　それに　イバラが混じっている。低い灌木といっても　背丈位はあって15～25m。それでも　非常に　こぎやすかった。ちょうど　47.7.豪雨の時で　天気はガスっていて　目的地へ着くことができなかった。その時の印象は　下りのルートファインディングの　むづかしいこと。そして　今度のヤブは、植生が全く違っている。シャクナゲ、ネマガリ竹、灌木、ツル　色々ありました。８人全員が　頑張っていた。あいにく秋雨前線で乙見山峠から小屋へ帰ってきたが　もう　私はこれでケッコーです。戸隠なんて　メッタに行ける所ではありません。もう　私達の目的は果たせたのです。いまさら　妙高の方を回ったところで　どうということもありません。私なんぞ　小屋でヌクヌクしていた方が　楽チンでいいのです。今日　買い出しに行くのです。酒を買ってくるのです。私は　野菜をいっぱい食べたいのです。なにしろ　ここのところ　今日で６日間　出ないんです。何がって…そう、アレが　ないんです。　（アレは　周期は一ヶ月だと聞いているけど？：　）　みんな　まだ　だいぶ　疲れが残っている様子。私も何かかったるくて　一日中布団にもぐっています。ところで　集結の後　8/29 から妙高周辺のｐｗを出しています。初めてのＬ経験で　果たしてどんなリーダーが出来るか判らない。まあ　それまでには　疲れも取れるだろうと思う。中島がこのノートの初めの方に書いていたが、２年も　もうリーダーを意識していい時期だ。いや、クラブをやっていく以上、リーダーを意識すべきだ。リーダーを考えるということは、取りも直さずクラブを考えるということに通じる。リーダーをやらないですまそうなんて言うのは　４年間クラブのケツにくっついてくる態度だ。自らクラブをやっていこうとするなら当然、リーダーをやっていかねば。そのリーダーの善し悪しなど問題ではない。自分で出来る範囲（地域、メンバー）で、精一杯やっていればいいのだ。（もし、そう考えていなかった者が居たならのこと）　今回ｐｗを立てたのも、妙高を歩くという目的の他にリーダーの事が一つあったからだ。

2年15th　大島　誠

無事生還。多分帰れるだろうとは思ってはみるものの、ひょっとしたらという気持が頭の隅にいつもあったのは本当である。２年前に西岡と河野が　このコースを計画していた時に、すげえ事をやるナーで呆れていた自分が、実際にやるなんて、分からないものなのです。ヤブは予想通りひどかった。あの苦しさは言葉では書けない。一生懸命考えたけれどダメ。乙妻山から堂津を眺めた時、どこから登れるのだろうと心配であった。頂上直下は壁であった。多分帰れるだろうと

思っては見るものの、ひょっとしたら帰れないかも知れないと、本気で考え出していた。ヤブの中での１９日。夜半からの雨。それも大雨。ツェルトが張れないので高木と傘を差して座っていたら、ズブヌレ。苦しみは頂点に達していた。「おかあさん～～」と叫んでみても、引き返すに引き返せず、行く手はヤブの又ヤブ。高木達が何故　ヤブなんかヤル気になったのか、よく分からなかったのだけれど、バスの車掌が教えてくれた。8/15 は藪入りなのだそうだ。雨の中、傘を差して考えた。ヤブの事をあヤブんでみても、始まらない。佐藤　前日本国親分も言ったではないか。引き返すこともヤブさかではないと。でも、あの乙妻からの 60m に及ぶ崖を降りてしまってから、オレ達８人は、進む以外に生きる手だては無かったようだ。20 日。視界悪く、晴れるのを寝て待つ。（イヤ、待って寝たのかも）。何しろ、この夜の夢見が悪かった。そのものズバリ、大雨で動けずテントの中で救助を待っている夢であった。多分帰れるだろうとは思ってはみるものの、これはひょっとしなくても帰れないのかもと覚悟を決めたのでアル。だが、本当についていたのでやんす。１１分の２程広がった青空を見ながら、ヤブの行進を再開したのでアル。そして何とか堂津直下の鞍部にたどり着いたのは５時過ぎていたけ。これで何とかなる。やっと　そう思えるようになれたのです。堂津のヤブは幕切れにふさわしく、一番酷かった。時は既に暮れ、いつの間にか半円形の月が二つ。いや、１ヶだったかも知れない。しかし、ヤブの中からは定かではなかった。皆　疲れてしまった。一歩登れば堂津に近づく。一歩一歩積み重ねていけば、いつかは着くんだと思っては見ても、遅々として進まなかった。８時を回ってから、ヤブを抜けた。草地の斜面は傾きを増していった。遂に不安は的中。行けないのでアル。何故、何故、何故、教せえて！何故立ち止まり、恥ずかしそうに首を振るの！オーバーハング。そんなにお腹が空いていたのかしらん。せっかくここまで登り詰めたというのに、何故、何故、教せえて。多分帰れるだろうとは思ってみるものの、またしても、ひょっとしたら、ダメなんじゃないかと、又考えなければならなくなったのである。遠く眺めた暗闇の中、小谷温泉の灯がうっすらと赤く見えたっけ。あ～～ア。帰りたい。何としても帰りたい。「おかあさ～～ん」と心の中で呼んでみた。多分、高木も同じ気持ちだったと思う。あのでっかい目玉を丸くして、暗闇に消えていった。左のヤブを回り込んでゴールイン。頂上に行けるという確率は０にも思えたが、全員安全圏内に入ったのはまさしく２１時であった。高木が又叫ぶ。道がある　と。道であった。ここ二日間、自ら放棄したところの道であった。この瞬間、オレが、この８人が待ち望んでいたのは、この瞬間であったのかもしれない。皆知らず知らずに叫んでいた。道であると言うことを。それは記憶の途絶えた人に、記憶というものが戻ったのと同じ気持ちだと思う。オレ達はヤッた。乙妻山と堂津岳という結びつかない道をつなげた。だが、「オレ達」というのは言い過ぎかもぇ。だがオレ達と言わせて欲しい。何故って、今までこれだけ興奮した事は絶対に無かったから。これほど劇的な思いはないのでアルから。

　ここまで書いて読み返す。何しろ帰れてよかった。だが残念。雨飾なのだ雨飾。雨飾。雨飾。

自称　山田の２番目の恋人

（2 年 15th　牛窪　肖）

（３番目は、実は私なのです、いや私でありたいＮＴ）

暇をもてあましてドボンを始めたのです。

（以下、アミダと　大島・牛窪・ウダ・鵜飼・植松のドボン点数表、３頁に亘って記録：省略）

昭和 47 年 8 月 22 日(火)

酔っているから責任持てない！品定め始めたのだ（宴会中、提案　上級生）

まず新鮮なところから、「３年は無視」。「最近　曽根原はいいよ」「いいの」「毛が生えてきたのではない」「パンスト以上？」

山崎について、知らねえな。姉さんは理科大のWVだって。姉さんより上。いいじゃん。顔　思い出さないもんね。オレがいれたんだよ。俺の前に出るとしおらしい。中島に言わせると　いい　という話。中島がシコシコやっている。浮かばねえな。スタイルでいったら長友の方がいいな。山崎はペチャンコだな。（いいじゃん、無くたって）（触ったらツルッていくのは恐怖だよ、小屋来たとき見てみろ）ヘッコンだな、長友はエメロン向き、エメロン売れなくなるよ、長友はいい子だよ。あまり良く知らねえな、ちょっと可愛くて、俺の顔を見て山崎は笑ったよ。笑い顔がいいな。山崎終わり。

長友について。　いい子だ。金あんのかな、9000 円無くして平気な顔しているもんね。どうだってかな。素直だよ。アパートで住んでいて大丈夫かな。鶴岡がコンパの帰りに寄ったというのは問題だよ。岩船がいれたんだもんね。あの子は憎めないよ。俺にタバコのフレームをくれたもんね。

村田　　のんべ、あいつ可愛いよ、山女になったよ。新歓の時弱そうだったね。あの時ちょうどナニではなかったか。去年の夏合宿もそうだったね。広沢はすぐ、判っちゃうもんね。28 日で計算すればいいのだ。ピルとは経口避妊薬だよ。次の時も苦しそうだったね。女子Wの飯豊によくついていったね。２回に１回は混成がいいよ。１対１の方がいいよ。

上級生に注意され、要点のみ書くことにする、（書かない方がおもしろいけど）

長田　　可愛いよ。170 あるよ、無いよ、おもしろいの一言。いくらなんでも日野がもてるわけ無いよ、北海道の魅力だね。佐藤と肩組んで帰ってきた。翌日二日酔いでぶっ倒れた。

新井　　上州の女という感じ、かかあでんか　だね。赤線付近だね、俺に興味があると言う情報をつかんだ。この手の顔がもてるのかね。一年はガキ趣味だね。筒井に似ているね。

松岡　　どう。あいつ似ているね信子に。子供のようで女のようで、色気があるね。（えらいいい加減なことを言いやがって、承知しないよ）　二浪ということはと＊こと（短大中退だ、文句あるなら何なり言って来い、請け合ってやる！！）　ウダより年上、酒の時 20 才と聞いたけど　尾瀬の時 21 と言ったよ。落ち着きがあるけど、ひねてるね。オレ達をバカにしているね。女も二浪すると、ろくなモンが入らねえな。女を感じるよ。そう言ってるね。この間シースルーだったもんね。産婦人科のそばだよ。話があるって電話があったので、俺が部室で寝ていたので、出ていったのだよ。俺は弁解しているのだぞ実に。

大竹　　部室、出てこないから判らない。二次要項のバテルところ見ていくのやになったんだって。全然知らねえな。平安時代は美人だよ、オカメだね。

そうかつ　　レベルが低かった。みんないい子だった。三年がいけない。二年がいけない。

青木　　いいなあ、きれいだし、世話女房型、あいつ考えすぎ、文はうまいな。俺と同じだな。あの手の顔はいいと思う。ちらっと険しい顔を見せるところが又いいな。　俺はそこが嫌なのだ、男に尽くすな。　足は引っ張らないな、　そこが嫌だな。旅館手伝いで惚れられたな。青木は俺に気があるのだよ、青木は俺に気があるのだよ。いるのかな、俺だよ。いいけど良すぎる。色気が無いね、男を翻弄しない。女でなくて女の子なんだって。オッ、この顔だ、青木でかいな、でかいな。もういい、80 点、ウダが 100 点、鵜飼が甘いって、加納言うこと無いよ、あいつ、授業に出てないよ。

桜井　　エイコチャンは僕のダジャレを理解してくれる唯一の人。キレ過ぎるのだ、それが良くない。あいつカッコイイよ。セーター、追いコンの時、脱いだとき、スラックス見えた。167。おれに微分方程式をくれない。うまいもんを食わしてくれるのが　菓子作りだけだよ、あいつ、良妻賢母型だよ。食いっぱぐれないよ、平安時代なら美人だよ。また触らしてくれるのはアイツだけだよ。山田は背中だけだよ。

鈴木まさ　　とりつくヒマが無いよ、Ｓ．Ｍじゃんか。じゃれあっているんよ。背でっかいな。162。牛窪とまさじゃ、俺と相性が悪い。村松さんがいれたんよ。あいつと話しているとくたびれるのだよ。まさの姉の方が興味あるよ、佐藤が詳しいのだよ。秋田に行け行けと言われた、門前払いをくったんだって。まさの酒なら佐藤は飲むと言っているよ、まさはちっちゃいよ。高木が見ているもんね。ベスト３　久保田じゃん、あれはでかすぎるんだよ、青木もでかいよ。

谷島　　純粋だね。染まってないのだよ。谷島ー山渓園　あそこ行くと結びつかないよ、最初のデートが山渓園だとダメなんよ、実験してみようかな。あんないい子は居ないよ、妙高に登ったとき北アがキレイだね、と言ったら「うん」と言った、俺に気があるという噂があるよ～。竹村と仲がいいという話だ。実験やっていてもレポートを書くのに手こずっている。要領が悪いのだよ。真剣なんよ。＊松と仲がいいという話だよ。ちがうよ。あいつ彼氏がいてもいいね。じれったくなるよ。入ったとき岩船が追っかけていたよ。ベタホメ

野中　　スカイラインの一言問題、私を見てニッコリと笑ったよ、可愛いのよ。妹が可愛いよ。より良かった。酒飲ますとますますいいよ。妹がいいぞ。山岳部に籍を置いた。山女に美人が多いよ。山で会うから、ではないの。野中を口説こうとした奴は、加納お前を知っている。加納本人なのだ。知らないよ、加納はいいよ、合うよ、仲人やってやるよ。俺と山田とで。外見と違うね、しっかりしているよ。経験してるもんね（大島）、雷があったとき山田を励ましたもんね。大島知っているよ、野中前で脱がしちゃうよ、かのう！加納！子供は何人、おまえどっちにしろ俺の兄さんじゃん、兄さん　早く言え。野中に悪いよな。惚れられて嫌がる女なんて居ないもんな。

広沢　　醜いな、性格的にルーズ、下田は広沢なのかな、山田かな、いずれにしろ下田を追っかけるのは趣味が悪いな、あいつが応化だもんね、大島だし、岩田だし、岡戸さんだもん。しかし趣味が悪いね。ボーイスカウトの姉さんだね、広沢の家から海が見えるよ。あたしに人生居直りだ（牛窪）、太め、ケツがでかすぎる、赤松さんが口説いたんだよ。広沢も何かダメですね。大学祭のプールの横はスゴイよ。ぶっつばれてたんよ、福地だ。あたしも頑張ろうかな、三年からやると一生責任持てなくなるからいやだよ、卒業してからやるといいのかな。誉めようか、個性的な美しさ、姉さんと呼でだ。

八木　　可愛い。赤松さんが大きいよ、どっちも趣味悪いよ、子供が出来たらどうするのかな、大人１人に子供二人、マンガにあったな「ほのぼの」、赤松さん張り切っているね、どうでもいい、売約澄み。

山田　　小せえ、山田にだけは助かれたいと、山田に、ほんとに山田好きだけど、山田の為ならなんでもやるよ。あいつはいいよ、牛窪　対抗　岡戸、山田はいいよ。あの手の趣味も好きずき、男好き、売春婦、

山田は俺の前に来るとヒーヒー言うよ。山田１人のヒモじゃあ稼ぎが少ないな、かったるいよ、萩生田は女から見て男と認められない。大島もでてきた、高橋さんもダメな人ね、俺という人がいるのに、鶴岡も一人いつも報われないね、一生懸命だったのにね。学校嫌いでも山田の為ならせっせと通うわ。友二さんに手袋あげて終わり。手袋を見せびらかすからいけないのだよ。

いよいよ三年

西井　　西井はいいよ、かなり良いよでかすぎるよ組み敷かれそうで良くないよ、骨が太い。でもいいよ西井は全面的にいいよ。その気になればかなりいいね髪型は考えた方がいいよ　白衣を着た時かなりの迫力、大きいから　だよ　　歯でも切られそうだった　長田と似ていたな　ニッカ履くと迫力あるな

曽根原　　二回目でホテルへとか、標準的な人間が多いのだよ　下田なんかそんな事して振られたという話だよ

久保田　　最近変わったよ　阪本とはどうなったの久保田にゆったんだけどな　「阪本だけはやめろ」とシュンさんがいけないのだよ　冬山訓練の時　色違いの帽子をシュンさんに渡したよ　阪本が翻弄されているという感じ　阪本がやめたというのは判らない　久保田はずぶとい　一見して図太くない　のと　一見して図太くないのと　阪本の

狩野　　大感謝　パウンドケーキの君　と書いとけと

他の人は　コワイからカット　　今ロマンチスト

昭和 47 年 8 月 23 日(水)

今日は妙高温泉に行って　みんなで風呂に入ってきました。僕は帰りに田口でラムネのビンを 20 円で買ってきました。若干猥褻な形のビンでした。今晩もお酒を飲むのです。晩ご飯は天ぷらなのです。　ぶつりか

にねん 15th うしくぼしょう牛窪肖

このところ天気はいつもはっきりしないのです。今日も田口では晴れていたのに、小屋に帰って来るとガスっているのです。岡戸さんは明日から雨飾へ行くと言っています。その後　白山へ行くそうです。ＯＢは表面気楽そうに見えます、いいなあと思っているのです。どうも最近何も考えないようになっています。早く帰って勉強したいなあと思っているのですよ、全く。何せ　６年生にはなりたくないもんね。出来ればずっと、つまり一生というか、学問に明け暮れたいもんね、働きたくねエ。？

Ａへ。

堂津を登り詰めて、雨の中必死に長電尾根を乙見山峠めがけて駆け下り、そのまま山小屋に飛び込んで３日が過ぎました。昨日　太田が入ってきた他は、ヤブこぎの悪童共だけ。雨に閉じこめられて何処へも行けずに、寝て暮らしていたけれども、そろそろ飽きてしまったようです。

今日久しぶりに青空がのぞき、天気は良くなってくる見込み。奴等は無事ヤブを抜けた事で満足したようだ。だがオレはやっぱり、雨飾への思いはつのるばかり。なんとしても登ろうと思っています。何故かって？２年前に高木を連れて焼山を越えた時に、そしてあの時の状態からして、仕方がなかったのだけれど、金山から雨飾に行かれなかったのが、残念で仕方がなかったからです。初めて火打の頂上に立った時、あれは一年の 10 月だったけれども、前にボカーと立ちふさがる焼山に圧倒されました。そしていつか登ってやると。焼山は２年前に行けたけれども、その焼山の遙か裏に霞んでいた雨飾が、焼山を越えたときに次の目標になっていました。だからこそ、行くのだと思います。2000 mに満たない山　雨飾山ーそんなにまで思い詰める程の事はないのかもしれないけれど・・・。その気持は焼山に行かなければ判りようが無いのかも知れないネ。そう、そして理由はまだあるけれど。研究室に入ってしまって、いつでも山にゆけるという訳でも無くなってしまっちゃたし。山小屋から逃げ出したいというのも本当。集結。やっぱりオレはコワイ。居たくないなというのが本当かも。「どうせ最後まで残って、騒いでいるにきまっている」と言っていたけれど、どうも弱気です。ワンゲルに入って集結を知らないなんて･･･。仕方は無いなとは思うんだ。１年の時しか合宿を知らないなんて・・・。

できるかどうか、わからない。だが、行ってみようと思う。雨飾を越えて白山まで。金沢で女の子でも引っかけて遊んでくる。３人まではイインだろう？

白山まで行けたらどうする？９月からは真面目に実験を始めようと思う。大学院２年は長いと思っていたけれども、４月から何の成果も得られず、４ヶ月が流れてしまった。結局１年やったことは全てダメだったのは　どういうことなのかナー。この４ヶ月に出た結果から、全てが否定された。だから山に逃げようとしているのかも知れない。

去年の８月を棒にしたことで、皆変わっていた。オレは１年の高木しか知らなかった。もはや、黒沢岳のヤブを登り詰めた時に、もう止めようと思った。高木ではなかった。たくましくなったナーと思うけど、何で彼女が出来ないんだろうと思う。山小屋の人間も変わっていたけ。どうもしっくりしないんだナ。オレのもんだと思っていたのはずっと昔のことで、やっぱり

皆のものだった。集結は楽しみだったけれど、もうどうでもよくなった。

堂津を登り切って遂に出たと言う気持は忘れなくとも、あの時の興奮は消えてゆきつつある。皆が集まってくる前に、消えてしまう前に、雨飾まで行きたい。オレにとっては、ヤブと雨飾で一つみたいに思えるから。

そのうちノンビリ来ようと思うから。その時に読んで笑うだろうナ。ま、イイヤ。その時は妙高へ登ろうよ。

OB　12th　岡戸 秀夫

岡戸さんが２年前の火打・焼に登ったときの事、書いている。僕にとって１年の時、夏合宿は川端の死という事で中止された。その代わり僕だけの夏合宿として行った。早い。いつの間にか３年も終わり、自分自身のワンゲルの具現化は出来た。本当に自分自身やりたい事をやり、そして充実感、満足感があった。３年間、いろんな事があった。本当にあった。たった一つ、絶対に忘れることの出来ない事があった。これを大切に卒業できれば　と思っている。

３年 14th　高木展郎

昭和 47 年 8 月 24 日(木)

今朝　岡戸さんが　雨飾へ向けて出発しました。天気がいいと　いいです。昨日の晩は　岡戸さんが　早く床に就いているにも拘わらず　遅くまで"ホワイト"を飲みながら　大声で歌って（怒鳴って？）　よく寝られたかな、と心配です。ごめんなさい。今日は　妙高あたり　登ろうとしたのですが、のろのろしていて遅くなり　笹ヶ峰あたりに変えようかと言っていました。でも　今日あたりから小屋に入って来る人も居るかと思い　大掃除をしていたら遅くなり、おまけに昼飯ののり巻きを作っているうちに　２時になってしまい　結局今日も　ごろごろする羽目になってしまったのです。夕方頃、みんなマージャンを始めました。高木さんが懸命に教わっています。私は　ジェンジェンキョーミ無いので　面白くありません。そこで　何か仕事無いかナーあ、と思案したあげく、道を作ることにしました。作ると言っても　今まで踏み跡はあったが　殆ど使われていなかった所を　はっきりと　良い道にするのです。＊　何処の道かと言うと　小屋からバス道へ出る近道で　詳しく書くと、井戸の少しバス道寄り　の所から　渋谷橋付近を結ぶのです。これが開通すれば、渋谷橋まで１分以上短縮される筈です。鎌とナタを持って奮闘。なんと 10m も開いたのです。まだ所々　草が覆い茂っているところもあるので、明日も頑張ろうと思います。しかし　入口さえハッキリしていれば　みんな騙されてそっちへ行き　大勢通って　ヤブもケッコー　いい道になるのではないか　とも思います。この道を切り開いた　大島氏の苦労をねぎらって　この近道を"大島新道"と名付けます。昭和 47 年８月 24 日　全日本かきわけ隊連盟会長　孤具屋武男。ところで　夕方　桜井エイコ様と太田点有氏が来ました。太田さんは何と"オールド"を差し入れて下さいました。そろそろ酒は止めようかと思っていた矢先、これで５日のうち４日間　毎晩飲んでいます。多分明日も誰か酒を持ってくるでしょう。それにしてもエイ子ちゃんが　メシを作って下さいますので、大変楽になりました。みんなまだ　マージャンやってます。

２年 15th　大島　誠

＊　あの道にはもっと歴史があるのです。あれはバス道から造林小屋に来る道で、山小屋が出来る前までは、こちらに入ってくる唯一の道＊＊だったのです。ところが　苗名小屋を作るとき、基礎工事にブルドーザーを入れて、今の太い方の道も　その時に作ったのです。４３年の夏のことでした。山小屋が出来た当時、あるいはその翌年くらいまでは、太い方の道は赤土で滑りやすく、歩きにくい為、みんなに嫌われ、専ら旧道が使われていました。岡田さんのところで、山小屋前の落葉松の下刈りをやる時は、あの旧道も刈り払いをしてました。あの道が使われなくなって、草が茂るようになったのは、ここ１，２年のことだと思います。冬期山小屋に入るルートは、あの旧道がベースになっているので一すヨ。何はともあれ、大島君ご苦労様でした。これからも手入れを怠らないようにお願いします。？

** それは嘘です。ワンゲル愛用の、少々草の生えていた道なのです。？？

小屋に来て初めて青空が見えた。朝　白樺の間から妙高頂上がくっきりと見えたが、だんだん雲が出てきて、ガスがかかり、ボヤけてしまった。それにつけても、昨年見た妙高の青空が忘れられない。あれは一生忘れることの出来ぬ美しさであった。小屋は秋が最高だと思う。毎日　皆　暇を持て余している。雑誌という雑誌　全て読破した現在、トランプ占い、マージャンが大流行。何か物足りない感じ。明日は早く起きて黒姫山を見に行くつもりだ。それから杉野沢へ出て葉書を出す。その時集結する人達に会うかも知れない。

中島が宮之浦岳の下りで骨折した事を、太田さんから聞いた。ドジな事をしたもんだ。張り切って北海道へ出かけていった彼の話を聞くのを、楽しみにしてい

たので、残念である。

2年15th　加納康樹

今日は頑張って「てつまん」（徹夜でマンジリともせず睨み合いをする事では勿論ありませんですのだ。）をすると言っているのですが、きっとダメでしょう、 と、ここまで読む人が居たら、その人はきっと最後まで読むだろうと思うのだが、本当にそんなに　なるだろうかと思いつつも書いているのですヨほんとに、と　こんな風に書いたらきっと、もし居たらの話　ここまで読んだ人は頭に来るだろうが、それでいいので　それこそ思うつぼなのだ　うしししし）と　これを書いているのは他あろう　何はともあれ　うしくぼさま　なのだ。（マル）

女が欲しいと言ったのは　それは昔のことで、今では女などちっとも欲しくはない　とはウソ。　どうも支離滅裂になりますのだ。これはけして決して私が悪いのではなく、何故なら、支離滅裂なんて言葉、というか単語というか、が２度まで書けるなんて、支離滅裂ではないのだ。何かまともなことも書こうと思ったが、何の無く　気乗らず、で止めて、支離滅裂なことを、支離滅裂に、支離滅裂な字で書くのだ。

これは余分

◎植松　早く沈んで、ハコになって、あと半チャンばかり終えて、俺とコータイしろ。

◎ラムプの奴め　ポッポッポッポッと飛んで遊ぶのやめやがれ

◎俺の頭め　もっと学問*にいそしめ　　*これはいるのかいらないのか、きっと　そういらないのだ

〇ワンゲルめ　もっと大きな心もて、 ちっと古いが　ワンゲルの心は母心、心　とはなんと危険なものよ　権力の思うツボ（とは　ちとナンセンスかな？）

◎海保さん　　中島の骨折　早くはあやく　なおってしまえ　（これは　言葉のリヅムのため）

◎ああ　それにしても　早くおうちへ　帰りたい早く　勉強（ベンキョ*）に　いそしみたい　（＊これも　リズムのため）

◎とはいえ　集結　終結になってしまわぬ　おそれは　ないか

◎これで　オイラの終結なのだ

2年15th　牛窪肖

昭和47年8月25日(金)

P.M　1:05

夏季ワンの後の集結のため小屋に来る。今　階下ではマージャンをする人、トランプをする人、雑誌を読む人、etc が何やら声を出している。多少うるさいが、大勢での小屋生活では仕方がないであろう。さて僕は、8/10～8/14 まで、沖縄本島の過疎地帯を歩いて来て、尽々感じたことを一つ二つ、ここに記しておきたい。それは、コミュニケーションは言葉でだけ行うものではないと言うことである。沖縄言葉で話しかけられた時の嬉しさ、それは何とも言いようのない心の温まるものであった。僕の大きい背荷物を見て「大変ですね、水がありますから飲んで行きなさい」と言ってくれた老婆に僕は標準語で「どうもありがとう」と言う言葉でしか応えられなかったもどかしさは、言葉の持つ浅薄さを感じさせたし、辺土部落の区長さん、会計さんとの懇談では、沖縄の玉砕時における体験を重苦しい口調で話されたとき、僕の想像力の貧弱さを痛感させられた。それでいながら、コミュニケーションが成立していたと確信している。嘉手納の近くを通るとき、ともすれば、海の美しさに見とれていれば、陸の軍事施設は気付かなくて済むのであるが、僕の目は海の美しさよりも巨大な飛行場と、重車両に目を吸い付けられてしまった。→→その時、ふと感じた事は、僕のような単純な人間が、海の美しさ、自然の美しさに見とれていると、その反対側にある現実の冷酷さ、矛盾に気付かずに一生を過ごしてしまうのではないか、と言うことである。沖縄の高校生と話をしした時、彼等の目は確かに本土を向いていたし、将来の不安を感じるのかのような、強かな現実主義を心の内に持っていると思われた。そしてそれが、一番大切なのだが、僕の目から見て、本土の若者には無い背骨を持っているようであった。つまり、学問的な高遠さこそ無いが、現実の重みを肌で感じ、問題意識を持つ人間のもつ、あの確かさなのである。沖縄を去る日、同じ船で平和友好日本青年の集いの団体（多分　民青の人々であろう）と一緒になったが、彼等が船上から「沖縄を返せ」「アメリカは沖縄から出て行け」「アメリカは沖縄から出て行け」といったシュプレヒコールは、僕の心で感じた沖縄の人々（それは　ほんの一握りの人々であるが）の生活とは相容れないものではないかと思われた。最後に大島渚の「夏の妹」を作って　47.8.4 朝日夕刊の記事を付記しておこう。

『…しかし、その時代の青春が美しいときでなければ、優れた青春映画は生まれない、というのが私のかねてのテーゼである。果たして今、時代の青春は美しいか？ともあれ、今若者たちの目は、日本の外へ向かっている。1970 年の夏だったか、アメリカへ渡って、ウェザーマンと共闘するのだという若者の送別会に出たことがあった。思えばあのあたりが、若者達が閉塞した日本から出ていくハシリだったか。しかし今は、若者達だけでなく日本全体が日本の外へ出てゆく時のような気がする。どんな美しい言葉で飾られようと、沖縄の本土復帰は第二次大戦後の日本が初めて植民地を持ったということなのだと考える。その沖縄へ若者

達も行く。そのことは自然で美しい。しかし彼等は何も見えない。私自身は見えすぎて何も出来ないのだと思っているが、実は何も見えていないというのが本当だろう。』

2年15th　広瀬勝昭

私は　自分の未熟さがたまらない。目先のことに追われた自分、自分の浅薄さがたまらない。こんな自分から抜けだしたくてもがいているんだ、でもわたしはちっとも変わらないﾐﾀｲ。こんなに苦しんでいるのに！

昭和47年8月28日(月)

今日、夏の集結が終わった。二十名近くの友を五八木に見送った。三十名ほどの人が小屋整備に残ってくれた。

私達の山小屋。歴代委員長のように私は、妙高なえな小屋を自分のものとは考えない。この子屋はワンゲルのものである。勿論私はこの小屋を、我が家とは考えているのだが。先輩が、土地捜し、交渉、資金集め、建設、改修、様々な道具が揃い、様々なものが運び込まれ、今日に至っている。そして小屋には、私達の汗と涙と笑いが、青春の愛、愛、傷つきやすく、もろく、多感な若人の心があった。情熱と、挫折と、閉塞と、私達は様々な時を送った。山小屋・・・ワンゲル・・・ワンダリング。

自己の欲求とは何だろうか。昨日の話し合いは、一人一人の心の中に、何を形作ったのか。広瀬氏が書いたように、もし人が傷ついたとしても、人を傷つけた者は一体誰なのか。傷ついた者が一体誰なのかとは、考えたくない。心と心のぶつかり合いの中で、人は常に安泰ではない。人を傷つけることを恐れていたら、何も出来ない。私達はそれを乗り越え変わっていくより良く。しかし、しかし、愛のない関係において、傷つけるためにのみ傷つける行為は、何も生み出すことは無いだろう。相手の立場への思いやり、相手の結論を通して一人間を通して考える行為がなされない時、話し合いや理解を望むことは出来ない。何故なのだろうか。ある集団で、多くに人が、ある考え・判断をしたら　それが絶対であり、その評価も絶対であり、そういう考えをしていると思っている人間は、その間違いを認め、修正しなければならないのか。

昭和47年8月29日(火)

問題が何であったか、はっきり、今、わからない。昨夜のあの険悪なムード、その発端が、実に些細な事であったと思っている人が多いのではないか。しかし、些細なことだからといって他人の心を傷つけたことを、うやむやにしてしまう事があって、いいものなのだろうか。僕は　決して否　と言いたい。というのは、僕自身が多分に他人を傷つける傾向があるから。そしてそのことに対し　唾を吐きたくなるほど　いやだと思っているから。とまれ、感情論は低次元に思い、理論めいた事が高次元と思っているのに、その根底で感情を　それも自分の感情を大事にしている人が、如何に多いことか。他人の欲望は受け止めず、自分の欲望だけで生きていきたいと願っている人よ！私は　その人に夢見る人　と言いたい。夢見る人＝それはロマンチストでもないし、実存者でもない。厳しい言い方かも知れないが、僕はその人を心の底から軽蔑するし、人格的に僕の心の中で抹殺していくつもりだ。ある女性がこんな事を言っていた。「私は、自分が楽しいとき、他人や、社会のことに気遣って自分の楽しさを壊したくない」と。僕はその女性に対し、「そんなことは我が儘というものだ」等と真面目に自分の考えを言う気になれなかった。多少軽蔑気味に「幸せだね」と言うくらいの感じしか持てなかった。　明朝p.w.に出かけるから、この辺で終わりにする。もっと静かなムードだったら、考えもまとまるだろうから、次の機会に書きたい。みなさん、おやすみなさい（階下に居る人達に対して）。

2年15th　広瀬勝昭

完全な人間は居ないのに、相手を完全ととり、絶対ととり、相手の言おうとすることよりも、相手そのものを否定する人達は、私には多くのことが判らない。山小屋はだんだん白けてくる。相手の考えを正しいとか違うとか、ただ言っている所では、何も生み出さない。そこには…

小屋ノートに向かっても、何も書く気になれない。抹殺され、否定された時、もう言葉は虚しく飛び交う。

小屋整備が終わり、これで1年間、どうにか小屋が維持できると思い、安心である。けれども、もうそこに、ワンゲルの小屋としての機能を求めることは　出来ないのかと思うと。

私の目指した事は、小屋の維持、管理でもない。小屋をワンゲルの原点として位置づけたかったのです。その為に小屋整備があり、集結があり、スキー講習会があり、稲刈りがあり、不本意ながらも、少数の正月の手伝いもあるのです。少人数においても、P.W.においても、一人で訪れたときにも、外部との交流においても。

3年14期　山ノ井とし子

昭和 47 年 10 月 14 日(土)

昨日車で、女子二人、男子三人のパーティーでやって来ました。部外者（この言葉は嫌な響きがありますね）の深沢は感謝感激しています。心理科の石川郁子さんは、素晴らしいと思っているようです。俺は運転手のため、羽目を外せないのが残念。でも部外者の深沢は言っていましたよ。ワンゲルの人々が真面目すぎるようだと。又話題が少しも面白くないとも。俺も　そう言われればそうだと思うのですから、案外当たっているのかも。？

昭和 47 年 10 月 15 日(日)

今日　帰ります。遂に一週間ゴロゴロしてしまいました。最初の二日は人がいっぱい居て、その後の三日は俺一人で過ごし、もう、一人で来るのはいやだな。最後の二日は再び人がいっぱいです。まだまだ　来るそうですが、今日がタイムリミット、残念ですけど帰らなければいけません。昨日は、溜めておいたエネルギーを爆発させて、一気に火打に登り、下ってきました。帰り　黒沢へ寄ってきたんだけど、すごく良かったよ。まだまだ、小屋の近くには良いところがいっぱいあるよ。

今年はこれで終わりかも知れないけど、また来年来ます。今度こそは焼へ登ります。昨日の朝　火打では、初雪が訪れました。ちょびっと残っていました。霧氷もきれいだったよ。今年は紅葉が早く、そろそろ下り坂だし、いよいよ冬の訪れが近づいてきました。では、さようなら。？

昭和 47 年 10 月 16 日(月)

やっぱり私が最後のページを飾る事になりました。これで、最後を取り持つのは二度目。でも今回は、ちょっと強引過ぎました。私も変わったように、小屋も変わってゆくようです。あんなに身近だった小屋がなにやら、下級生に近づき、私から離れてゆくようで。でも　それでいいのでしょう。雨も降っているし、紅葉もきれいだし、永遠に変わらないのですから。

4 年 13thＮＴ　竹村　昇